



イスラム教徒の女性が、チャドルで体をおおうのはなぜ

コーランのおきてで決められているから

チャドルは、イスラム教が広がっている地域の女性が着る、ベールと頭巾とマントをかねた服です。地域によってよび方がちがいで、イラン、イラク、北インドでは、チャドル、チャダール、南インドでは、ブルカ、バルダーなどともいいます。

イスラム教徒の女性は、もともと、コーランのおきてにしたがって、他人に顔を見せない風習があるのです。小さいときは、顔を出していますが、10才ぐらいになると、チャドルを身につけ、全身をおおうようになります。

イスラム教は、いろいろな宗派に分かれており、イスラムのおきてが厳しいところでは、女性は、体中をチャドルでおおい、目だけ出しています。目の部分も、外から見えないようになっているチャドルもありますが、その場合は、目のあたる部分に、すけて見える布をあ当てています。

一方、イスラムのおきてが、それほど厳しくないところでは、女性も顔を出し、わたしたちとあまり変わらない服装をしています。

1日に、5回もおいのりをするイスラム教徒

イスラム教の聖地は、サウジアラビアにあるメッカ（教祖マホメットが生まれた都市）というところですよ。イスラム教徒は1日に5回、聖地メッカの方を向いて、おいのりをする。また、日の出から日の入りまで、何も食べてはいけない、ラマダーンという断食月があります。（監修・青木 国夫）

